

市有形文化財

いなよしおいまつじんじゃかんこうえんぎえ

掛軸 「稲吉老松神社菅公縁起絵」修復

平成28年、小郡市稲吉区長が代々引き継いできた^{たんす}筆筒から2つの掛軸が見つかりました。地域の歴史や文化を今に伝える、色鮮やかな掛軸。そんな地域の宝物を守り続けようとする人々の活動や思いを紹介します。

問

文化財課文化財係
☎ 75・7555

「稲吉老松神社菅公縁起絵」 とは

19世紀に製作されたこの掛軸は、菅原道真(天神さま)の生涯と死後の活躍を場面ごとに描いたものです。このような内容のものを「天神縁起」と言います。

天神縁起はもともと絵巻物として作られていましたが、江戸時代に庶民まで信仰が広がると、一度にたくさんの人が見ることでできるように掛軸の形になりました。この掛軸形式のものは、福岡県内で4例しか見つかっていない貴重なものです。

掛軸の最後の場面(第2幅)には当時の稲吉老松神社の景観が描かれており、神社の左側には宝満川や現在も残る水路が見えます。これは天神縁起の中でも「ご当地縁起」と呼ばれる地域オリジナルのもので、非常に価値があることから、令和元年に「稲吉老松神社天神信仰資料」として小郡市の有形文化財に指定されました。令和3年には、九州国立博物館で開催された「特集展示・天神縁起の世界」でも展示され、注目を集めました。



修復された掛軸「稲吉老松神社菅公縁起絵」の
第1幅「菅原道真公一代の伝記」



修復前は折れや絵具の剥がれなどがありました

これからの活用

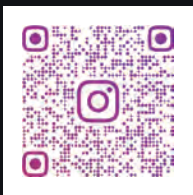
令和5年2月15日、修復された掛軸が小郡市に返ってきました。修復後の半年間は、特に虫やカビに弱いことから、開かずに保管して養生させなければなりません。

養生完了後、菅原道真の命日2月25日にあわせ、令和6年2月ごろに九州歴史資料館で修復記念展示会を開催します。その後は、地元稲吉区で定期的に公開される予定です。

また、保存会でも、稲吉老松神社境内に絵馬掛所を設けたり、縁起絵のレプリカを作成して展示したりするなど、多くの人に参拝してもらえるよう活動を進めていこうです。

今回の掛軸修復事業は、小郡市の宝物が蘇っただけでなく、修復のための活動で地元稲吉区の地域おこしにもつながりました。

これをきっかけに、皆さんの地域でも「地域の宝(ヒト・モノ・コト)を大切にしたい」という思いが高まることを期待しています。



Instagramで保存会の活動を
紹介しています



第2幅「天満大自在天神としての霊験・利生譚」
れいげん りしょうたん

地域の宝物を修復へ

稲吉区では、掛軸をはじめとした資料一式を、天神信仰のよりどころとして大切に守り伝えてきました。

しかし、長い年月を経る中で傷みが深刻になりました。特に、絵に入った亀裂が深刻で、このままでは絵具が剥がれ、元に戻らなくなる危険がありました。

令和3年、掛軸の価値が評価され、「公益財団法人朝日新聞文化財団」から修復費用の一部助成を受けることが決定しました。地元では「稲吉老松神社天神信仰資料保存会」を立ち上げ、修復事業を行うことになりました。

保存会会長 山田英昭さん へのインタビュー

- ☑保存会で活動して、印象的だったことは？
- ☒小郡イオンで募金活動を行った際、数人が縁起絵に興味を示し、募金をしてもらったことが印象的でした。小さな子が「がんばってください」と言って募金してくれたのは、とてもうれしかったです。



保存会メンバー
(中央が山田会長)